

1 目的

ごみの減量の推進や温室効果ガスの削減、資源の有効活用を図るため。

2 位置付け

「食品ロスの削減の推進に関する法律」を根拠とし、「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画及びアクションプラン」の「基本施策2-1 生ごみの減量の推進」を具体化するものとして策定する。

3 計画期間

アクションプランと同様に、本計画の期間は2026年3月から2031年3月までとする。

計画の位置づけ

図表: 計画の位置づけ

上段: まちだ未来づくりビジョン2040 (実現) → 第3次町田市環境マスタープラン (策定) → 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画・アクションプラン (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

中段: 東京都 (ゼロエミッション 東京戦略 Beyond カーボンハーフ) → 東京都食品ロス削減推進計画 (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

下段: 町田市地域戦略プラン (策定) → 第五次町田市地域福祉活動計画 (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

その他: まちだ健康づくり推進プラン24-31 (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

関係する法律: 食品ロスの削減の推進に関する法律 (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

関係する計画: 食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針 (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

関係する計画: 町田市食品ロス削減推進計画 (策定) → 町田市食品ロス削減推進計画 (策定)

5 課題

計画に位置付ける施策の方向性を定めるため、食品ロスの現状と食品ロスに対する住民意識・取組状況等から、市における食品ロス削減に向けての課題を以下のとおり整理。

食品ロス削減の取組を行っている市民の割合が高い一方、市内で発生する家庭系食品ロスの量は、近年ほぼ横ばい。	▶ 自らが排出する食品ロスの量を正しく把握していた必要がある。
食品ロス削減を含む3Rの取組に対して、必要性を感じない市民や興味がない市民が一定数いる。	▶ 食品ロス削減の必要性を周知するとともに、食べ物を大切にする価値観を醸成する必要がある。
食品ロス削減の取組を行うきっかけがないと回答する市民が一定数いる。	▶ 市民が食品ロスの削減に取り組むきっかけづくりを行う必要がある。
食品ロス削減の取組のやり方がわからないと回答する市民が一定数いる。また、市の取組に対する認知度が低い。	▶ 食品ロス削減の具体的な取組・行動例を周知する必要がある。
事業者との連携の取組は行っているものの、事業者の参加率が低く、連携が不十分である。	▶ 市と事業者の連携を強化する必要がある。

4 現状

(1)国内及び市内の食品ロスの現状

		2020	2021	2022	2023	2024
国内	推定量	522万トン	523万トン	472万トン	464万トン	-
	前年度比	-8.4%	0.2%	-9.8%	-1.7%	-
市内	推定量	14,420トン	14,973トン	15,064トン	13,752トン	14,967トン
	前年度比	0.8%	3.8%	0.6%	-8.7%	8.8%
	家庭系	10,721トン	11,208トン	11,179トン	9,931トン	10,205トン
	事業系	3,700トン	3,766トン	3,885トン	3,821トン	4,762トン

(2)食品ロスに対する住民意識・取組状況(2025年4月に実施した市民アンケート結果から)

- 食品の食べ切り・使い切りに努めていると回答する市民の割合が72%、買い物時や調理時に食品ロスが出ないよう工夫していると回答する市民の割合がそれぞれ68%。直近3年間の結果に大きな変動はない。
- 食品ロス削減を含むごみの分別や3Rへ取り組んでいない理由として、「やり方がわからない」「きっかけがない」と回答する市民の割合がそれぞれ40%程度。直近3年間の推移をみると、どちらの項目も増加傾向にある。
- 食品ロス削減を含むごみの分別や3Rへ取り組む必要性を感じないと回答する市民は15%、興味がないと回答する市民は11%。
- 町田市が行っている食品ロスに関する取組を知っていると回答した市民の割合は7%。

(3)事業者との主な連携実績(2024年度)

- 「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」やフードシェアリングアプリ「TABETE」に登録する店舗は、それぞれ20店舗程度。
- 「TABETE」に出品された食品について、利用者が購入した割合(マッチング率)は34%程度(年度平均)。

(4)食品ロスの内訳(都内・市内)

都内の食品ロスの内訳

2022年度発生量合計 31.7万トン

- 外食産業系: 11.0万トン
- 家庭系: 13.0万トン
- 食品小売業: 5.8万トン
- 食品卸売業: 0.6万トン
- 食品製造業: 1.3万トン

(資料: 東京都環境局)

市内の食品ロスの割合

2024年度 14,967トン

- 事業系: 4,762, 32%
- 家庭系: 10,205, 68%

6 基本方針

市民・事業者が、食品ロスの問題を自分事として捉え、理解したうえで削減に取り組むことができるよう、以下の方針を踏まえて取組を推進する。

- 食品ロス問題への意識や取組状況に応じた啓発の実施
- 他部門と連携した取組の推進
- 発生抑制を最優先とした取組の実施

7 目標(2024年度→2030年度)

- 家庭系削減量 2,147トン (2024年度比約21%削減)
- 事業系削減量 1,013トン (2024年度比約21%削減)
- 食品ロス削減に取り組む市民の割合 74.2% ➡ 80%

8 目標達成に向けた施策の方向性

市民・事業者の食品ロス問題への意識や食品ロス削減の取組状況には差異があります。これを踏まえ、食品ロス削減に取り組むに至るまでに必要なことを3段階に分けて考え、それぞれに適した取組を実施する。

(1)市民の食品ロス削減の行動を促す取組

STEP1	STEP2	STEP3
食品ロスへの理解を促し、食べ物を大切にする価値観を醸成します	実践行動のきっかけづくりを行います	実践行動の促進、定着、強化を行います
具体的な取組 〇実態の把握 〇食品ロスダイアリー の作成及び活用 〇実態調査の実施及び結果の周知 〇教育 〇「資源とごみの出前講座」の実施 〇食育と連携した啓発の実施 〇学校給食を通じた啓発	具体的な取組 〇行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施 〇ホームタウンチームと連携した取組の実施 〇飲食店やスーパー等と連携した広報、啓発の実施 〇市民と連携した啓発	具体的な取組 〇使い切り料理教室の実施 〇フードシェアリングサービスの利用促進 〇フードドライブの拡大、周知

(2)事業者の食品ロス削減の行動を促す取組

STEP1	STEP2	STEP3
食品ロス削減の必要性の理解促進	実践行動のきっかけづくりを行います	実践行動の促進、定着、強化を行います
具体的な取組 〇実態の把握 〇実態調査の実施及び結果の周知 〇事業所へのヒアリングを通じた実態把握	具体的な取組 〇行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施 〇「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」やフードシェアリングサービスへの登録に向けた働きかけ 〇飲食店等での持ち帰りの推進 〇食品リサイクル施設の活用事例の周知 〇優良事例の周知	具体的な取組 〇スーパーや飲食店と連携したキャンペーン等の実施 〇事業者が実施している取組の市民周知 〇優良企業への表彰

9 取組及び指標一覧

	段階	市の取組	概要・指標	
市民の食品ロス削減の行動を促す取組	STEP 1 食品ロスへの理解を促し、食べ物を大切にする価値観を醸成します	食品ロスダイアリーの作成及び活用【拡充】	1週間自宅で発生する食品ロスを記録する「食品ロスダイアリー」を作成し、市民に活用いただく機会をつくります。	
			指標：環境学習の場等での食品ロスダイアリーの活用	
			現状(2024年度)：未実施	目標(2027年度)：活用開始
		実態調査の実施及び結果の周知【継続】	市内で発生する食品ロスの実態や市民意識を把握するため、ごみ組成調査や市民アンケートを実施し、結果を周知します。	
			指標：食品ロスに関心がある市民の割合	
			現状(2024年度)：94.4%	目標(2030年度)：96.0%
		「資源とごみの出前講座」の実施【継続】	講話を通じて食品ロスの現状を伝えとともに、家庭でできる食品ロス削減の取組について紹介します。	
		食育と連携した啓発の実施【継続】	主に食育についての情報発信を行う「まちだ食のわ」SNSでの発信等を行うことで、情報を受け取る市民の幅を広げます。	
	STEP 2 実践行動のきっかけづくりを行います	学校給食を通じた啓発の実施【継続】	規格外野菜等を使用した加工品や、賞味期限が近付いた防災備蓄食品を給食で提供することで、子どもたちや保護者の食や食品ロスへの意識を高めます。	
		行動の動機付けとなるようなデータ（食品ロス発生による経済損失等）を活用した広報・啓発の実施【新規】	食品ロス削減に取組むきっかけとなるような広報・啓発を実施します。	
			指標：行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施	
			現状(2024年度)：未実施	目標(2026年度)：2回以上/毎年
		ホームタウンチームと連携した取組の実施【新規】	ホームタウンチームと連携し、スポーツ観戦に訪れる方々に向けて食品ロス削減行動のきっかけをつくります。	
			指標：ホームタウンチームと連携した取組の実施	
			現状(2024年度)：未実施	目標(2026年度)：実施
		飲食店やスーパー等と連携した広報、啓発の実施【継続】	民が日常的に利用する飲食店やスーパー等と連携してキャンペーンを行います。	
		市民と連携した啓発【新規】	3R市民リーダー等と連携し、広報・啓発の場を広げることで食品ロス削減行動のきっかけをつくります。	
			指標：市民と連携した啓発の実施	
			現状(2024年度)：未実施	目標(2028年度)：1回/毎年
	STEP 3 実践行動の促進、定着、強化を行います	食材を使い切るレシピやリメイクレシピ等の作成、周知【継続】	食材を使い切るレシピやリメイクレシピ等を考案し、イベント等でのレシピの周知を行います。	
			指標：食材を使い切るレシピやリメイクレシピの考案	
			現状(2024年度)：未実施	目標(2026年度)：1回/毎年
		使い切り料理教室の実施【継続】	食品ロス削減をテーマにした料理教室を開催し、食材の使いきり方法や食材を無駄なく使う調理方法等を紹介します。	
		フードシェアリングサービスの利用促進【継続】	フードシェアリングアプリ「TABETE」について、イベント等で周知し、利用を呼びかけます。	
			指標：市内の店舗から出品された食品のマッチング率	
			現状(2024年度)：34%	目標(2030年度)：40%
		フードドライブの実施と拡大・周知【拡充】	多くの市民・事業者にフードドライブを活用いただけるよう、回収拠点を拡充します。	
			指標：公共施設におけるフードドライブの受け取り窓口数	
			現状(2024年度)：6か所	目標(2030年度)：12か所

	段階	市の取組	概要・指標	
事業者の食品ロス削減の行動を促す取組	STEP 1 食品ロス削減の必要性の理解促進	実態調査の実施及び結果の周知【継続】	ごみ組成調査を実施し、事業者向け講習会やイベント等で結果を周知します。	
		事業所へのヒアリングを通じた実態把握【継続】	大規模事業所の立入検査等の機会を利用して、事業所の取組状況等についてヒアリングを行います。	
	STEP 2 実践行動のきっかけづくりを行います	行動の動機付けとなるようなデータ（食品ロス発生による経済損失等）を活用した広報・啓発の実施【新規】	削減に取組むきっかけとなるような広報・啓発を実施します。	
			指標：行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施	
			現状(2024年度)：未実施	目標(2026年度)：2回以上/毎年
		「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」やフードシェアリングサービスへの登録に向けた働きかけ【継続】	「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」や「TABETE」について、事業者向け講習会やイベント等で、事業の概要説明や登録の呼びかけを行います。	
			指標：「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」及び「TABETE」登録店舗数	
			現状(2024年度)：40店舗	目標(2030年度)：100店舗
		飲食店等での持ち帰りの推進【新規】	消費者の自己責任での持ち帰り行動を推進するため、食品衛生実務講習会等の食品関連事業者が参加する講習会やイベントで情報提供や実施の呼びかけを行います。	
			指標：市内飲食店等での持ち帰り容器の導入	
			現状(2024年度)：未導入	目標(2026年度)：導入
	STEP 3 実践行動の促進、定着、強化を行います	食品リサイクル施設の活用事例の周知【継続】	食品衛生実務講習会等の食品関連事業者が参加する講習会やイベント等で、食品リサイクル施設の活用事例の周知や活用の呼びかけを行います。	
		優良事例の周知【継続】	その他食品ロス削減に関する優良な取組について情報提供を行います。	
		スーパーや飲食店と連携したキャンペーン等の実施【継続】	飲食店やスーパー等と連携して「まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン」等を行います。	
			「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」や持ち帰り推進店舗、その他事業者が行う食品ロス削減の取組について、ホームページやSNS、広報紙で周知を行います。	
		事業者が実施している取組の市民周知【継続】	「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」や持ち帰り推進店舗、その他事業者が行う食品ロス削減の取組について、ホームページやSNS、広報紙で周知を行います。	
		優良企業への表彰【継続】	食品ロス削減に寄与する取組を行っている優良企業に対し、「まちだ3R賞」の表彰を行います。	
その他の取組		市の取組	取組概要・指標	
	公共施設から発生する食品ロスの削減	食品ロスを考慮した保育園給食の提供【継続】	公立保育園について、お盆や年末年始、夏休み等の登園人数が少ない時期に、乾物を利用して調理することで食品ロスが出ないよう工夫します。	
		イベント等での災害時用備蓄食品の配布【継続】	災害時の避難者用の食料や市有施設の職員や来館者のため備蓄している食品（災害時用備蓄食品）について、期限切れとなる前にイベント等での配布を実施します。	
		学校給食における災害時用備蓄食品や規格外野菜の活用【継続】	規格外野菜等を使用した加工品や賞味期限が近付いた災害時用備蓄食品を給食で提供することで、食品ロスを削減します。	
	生ごみの自家処理	家庭用生ごみ処理機購入補助【拡充】	家庭用生ごみ処理機の購入費の補助を行います。より多くの方に補助制度を活用いただくため、補助割合や補助額など制度の見直しを実施します。	
			指標：家庭用生ごみ処理機補助制度の見直し	
			現状(2024年度)：検討	目標(2026年度)：実施
		ダンボールコンポスト講習会の実施【継続】	家庭での生ごみ処理を促進するため、ダンボールコンポストの講習会を実施します。	
	生ごみの再資源化	食品リサイクル施設の活用及び活用事例の周知【継続】	食品リサイクル施設の活用による生ごみの再資源化促進のため、市や事業者の活用事例をホールページや広報等で周知します。	